

個々人の努力

安心
平和
幸福

への努力

家族の調和
地域の活性
経済の安定
福祉の充実
秩序の確守
自由の尊重
他国との共存
...

綱
(太く長い国の伝統)

先人たちの努力の糸がよりあわせられた綱を継承し、
さらなる努力の糸をしっかりと編み込んで未来へと伸ばしていくことが、
国の恩人に対する報恩になります。

ということは、人々の生命と生活を守り、相互に協力し合い、支え合うことを実現しようとして力を注いできた恩人たちによって、かろうじて保たれてきたものであり、現存するどの国もそれぞれの問題を抱えながら、なんとか維持されているともいえるでしょう。

現代に生きる私たちにとって、歴史を振り返り、これらの国の恩人の努力を知ることが、未来に向けて必要なことになっています。私たちが継承すべきは、その恩人たちの努力と願いにあります。

つまり、人々の生命と生活を守り、相互に協力し合い、支え合うという努力と願いを継承することが、国の恩人に対する報恩であり、頑丈な綱を継承する力なのです。

また、他の国々にもその国を支えてきた恩人の系列と歴史があります。他国を自国と同様に尊重し、国際的な平和を実現していかなければ、自国の存続も困難です。国の恩人の系列に感謝し、その恩に報いていくことの中身には、他の国々との共存への努力が含まれていることも忘れてはならないことなのです。

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は第八章の(三)の「日常生活における各伝統への報恩」を図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成=「れいろう」編集部

国の存続を支える

——協力し支え合う努力の継承

みやしたかずひろ
廣池千九郎研究室研究員 宮下和大

人類の歴史とは、多くの国々が興亡を繰り返してきた歴史でもあります。広大な領土を誇り、栄華をきわめてきた帝国や王朝であっても、さまざまな原因が重なることで滅亡してきました。

国が長く存続していくことは、弱い糸をねじりあわせて頑丈な綱にしていくことに似ています。それまでどれほど丈夫にねじりあわせてきた綱であっても、その手間を惜しんで手抜きをしてしまうと、しだいにもろく弱いものとなって、ついには切れてしまいます。

とりわけ、自分が所属する国が現に存在しているあいだは、国があるのは「あたりまえ」と思いやすく、いま必要な努力を忘れやすい面があります。しかし、国の存続とはそれこそ綱渡りのようなものといえます。

国が滅ぶ要因には、内政の混乱や経済の不振、外国の侵略など、さまざまなことが挙げられます。これから国を守り、存続させるために、先人たちは多様なレベルでそれぞれの努力を続けてきました。これらの中核には広い意味での道徳的な努力が含まれています。国が存続してい